

2023 年度 事業報告書

事業の状況

1. 事業の実施状況

軽種馬の資質の向上並びに軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図り、競馬の安定的な発展を通じ、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、以下の事業を積極的に実施した。

(1) 軽種馬の育成調教技術の改善・普及

軽種馬の育成調教技術の改善・普及を図るため、軽種馬生産・育成者等を対象に講演会・講習会を開催するとともに、技術普及誌（BTCニュース）を発行し、育成調教技術向上のための情報を提供することにより、生産地の基幹産業である軽種馬の生産・育成業の活性化を図り、地域社会の発展に寄与した。

- ① 育成技術講演会は生産者・育成者等の技術向上を図るため、9月に東北地区および九州地区において「軽種馬生産に影響を及ぼす様々な細菌感染症～その原因と対策」（BTC主催）、10月に北海道地区にて「競走馬のトレーニングについて」（(公社)競走馬育成協会主催）、11月に関東地区および関西地区にて「最適なコンタクトで馬のバランスを整える方法」（日本中央競馬会主催）をテーマに開催した。
全体で500名を超える参加者があり、活発な質疑応答がなされた。
- ② 育成調教技術者短期講習会は、育成業務に携わる者を対象に騎乗技術のレベルアップと知識の習得を図るため、10月に各1週間の講習会を計2回実施し、12名が受講した
- ③ 技術普及誌「BTCニュース」は、馬に関する基礎知識、生産・育成に関する技術および情報等を中心に、読者にわかりやすい内容で掲載し、年4回、各回3,200部発行・配付した。
- ④ JRA競馬場来賓室の利活用方針に基づきBTCニュース広告主に対し、10月21日に東京競馬場にて研修会を実施した。

(2) 軽種馬の育成調教技術者の養成

軽種馬の生産地等において、育成調教技術者として就労を希望する者に、1年間の研修を通じ、馬に関する体系的な技術・知識を習得させ、育成調教業務の技術的中核となる人材を養成し、就労の支援を行うことにより軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図った。

- ① 2022年4月入講の第40期生(25名)は、4月14日に24名が研修を修了し、日高管内15名(浦河町8名、新ひだか町2名、新冠町2名、日高町3名)、胆振管内4名、道外5名が軽種馬の育成牧場へ就労した。
- ② 修了生のうち成績優秀者1名を、(公社)競走馬育成協会の軽種馬経営高度化指導研修事業の海外研修に推薦し、5月9日～8月3日にアイルランドにて84日の研修が実施された。
- ③ あかしあ寮(研修寮)が4月12日竣工し4月15日引越が終了した。
- ④ 4月19日入講の第41期生(27名)は、5月1日・10日及び7月3日に各1名が退所したが、24名は順調に受講している。
- ⑤ 小田卓朗氏(元オリンピック・スピードスケート日本代表選手、現浦河町職員)による講習会を5月29日(体幹トレーニング)及び12月6日(メンタルコントロール)に実施した。
- ⑥ 民間インストラクターによる体幹・筋力トレーニングを試行的に7月3日、8月7日、9月19日、10月24日に計4回実施した。
- ⑦ BTC研修OBからJRA調教師となった河嶋宏樹氏による特別講義を、8月29日に日本中央競馬会日高育成牧場会議室にて実施した。
- ⑧ 研修生向けの牧場就職説明会を9月25日～10月13日に実施し、22牧場が来場した。
- ⑨ 研修生の就職先の選択に資するため、11月20日から12月13日まで、各自2牧場のインターンシップを実施した。
- ⑩ 事業の情宣活動を拡充・改善するとともに、体験入学会を7月20日(主催BOKUJOB)、7月28日、8月10日、8月17日(主催BOKUJOB)の計4回実施し、全国から60名が参加した。

BOKUJOB事業への参画

- ・牧場で働こう見学会(関東:3月11日、関西:3月18日)
- ・BOKUJOB2023メインフェア(東京競馬場:6月3日・4日)
- ・牧場で働こう体験会(7月30日～8月4日)

・ BOKU JOB サポートデスク

「三木ホースランドパーク 計2回:関西学生馬術大会等5月3日～4日、
全日本学生馬術大会11月1日～4日」

「阪神競馬場:6月17日・18日」

「苫小牧市ノーザンホースパーク 計2回:各種馬術大会7月21日～23日、
8月8日～10日」

「静岡県御殿場:全国高校馬術大会7月24日・25日」

「小倉競馬場:9月2日・3日」

・ BOKU JOB 2023 Web フェア (11月4日・5日)

⑩ 2024年4月入講予定の第42期生については、67名の応募があり、27名を選考した。

(3) 共同利用に供する軽種馬育成調教施設の運営・管理及び貸与

日高育成総合施設軽種馬育成調教場を不特定多数の軽種馬生産・育成者に共同利用のために提供し、その利用を通じ、軽種馬の資質の向上とともに経営基盤の安定、強化を図り、生産地の活性化に寄与した。

① 特定資産取得・改良資金を利用して、調教施設の保守に必要な作業機械の更新及び、調教場内の安全確保のために調教場安全監視カメラの増設やインボイス制度に対応した調教場業務管理システムの改修を行った。

② 調教場開場30周年を記念して、調教場利用者に対して矢作芳人JRA調教師による特別講演会を6月20日に浦河町総合文化会館にて開催した。

③ 調教場開場30周年を記念して、ホッカイドウ競馬において以下の3レースに協賛した。

・ 6月15日 第11レース BTC調教場30周年記念特別I

・ 7月19日 第10レース BTC調教場30周年記念特別II

・ 10月5日 第12レース BTC賞第1回ネクストスター門別(H1)

④ 9月17日に発生した堆肥場ぼや事案に係る当面の再発防止策を講じた。

⑤ 11月に調教場利用者向けの公式LINEアカウントを開設し、情報提供方法の多様化・迅速化を図った。

⑥ 調教場の利用状況

イ) 調教責任者の申請承認

調教責任者 43名 (法人35名、個人8名)

調教要員 626名（うち外国人 379名）
調教用馬 4,372頭（うち利用馬 3,930頭）

※調教要員および調教用馬は年間申請数

ロ) 利用頭数

利用延頭数 158,539頭（前年比 112.9%）

利用実頭数 3,930頭（前年比 107.4%）

1日平均 508.1頭（前年比 112.5%）

うち日帰り馬 472.3頭（前年比 113.1%）

1日の最高利用頭数 781頭（2023年12月22日）

※調教場開場以来の最高頭数 787頭（2011年5月3日）

利用料収入 275,836,270円（前年比 109.8%）

※内診療収入 51,440,070円（前年比 116.8%）

⑦ 馬場および施設等の主な管理状況

イ) 屋内トラック馬場（600m）

通年で全面を9cmの均一な砂厚調整に努め、良好な状態に管理した。

ロ) トラック砂馬場（1600m）

8月と10月にコースの内側から中央部にクッション砂を厚さ3cm程度補充し、全面9cmの良好な状態に管理した。

ハ) トラック砂馬場（800m）

全面を9cmの均一な砂厚調整に努め、良好な状態に管理した。

ニ) 直線砂馬場（1200m・1600m）

両コースとも中央部にクッション砂を厚さ2~3cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

また、スタート及びゴール地点の路肩並びに排水路の切り下げを行い、排水性を改善した。

ホ) グラス馬場直線走路（2000m）

本年も2コースに分けて管理を行い、蹄跡補修の目砂に黒土やピートモスを混合することで、芝の活着促進に努めた。

また、傷みが比較的激しい箇所には芝生張替えやカップ補修（芝の部分的移植）を行い、良好な状態となるよう管理した。

ヘ) 坂路グラス馬場

コース外の芝枯対策として適宜、耕起・転圧・整正・播種を行い芝の生育管理に努めた。

ト) 屋内坂路馬場（1000m）

9月に馬場を6日間クローズし、既存のウッドチップを表層から8cm程度スキ取り、篩分けた旧材と新材の混合材の補充を行いウッドチップ厚を約25cmに調整した。また、5月から11月の期間中、定期的に少量の新材ウッドチップの補充(合計5cm厚程度)及び攪拌を行い、良好な状態に管理した。

チ) 屋内直線馬場 (1000m)

5月から11月の期間中、定期的に篩分けた旧材と新材を混合したウッドチップの補充(合計5cm厚程度)及び攪拌を行い、良好な状態に管理した。

リ) 教育エリア トラック砂馬場 (800m)

均一な砂厚調整に努め、全面を9cmに管理した。

⑧ 競走成績

| | |
|-------------------|--|
| 中央競馬 | 798勝 (前年度 747勝) |
| うち2歳馬 | 130勝 (前年度 123勝) |
| 地方競馬 | 3,490勝 (前年度 3,252勝) |
| 中央競馬のグレード競走 | GⅠ:2勝、GⅡ:2勝、GⅢ:15勝 JGⅠ:1勝、JGⅡ:1勝、JGⅢ:1勝 |
| 地方競馬で開催されたダート重賞競走 | JpnⅠ:4勝、JpnⅡ:1勝、JpnⅢ:3勝 |
| 海外で開催されたグレード競走 | G1:1勝(SAU)、G3:2勝(SAU、KOR) |

⑨ 育成調教場利用馬における育成調教の指針や飼育管理に関する情報を、利用者に提供するための調査研究を実施した。

イ) 早期かつ安全に骨盤骨折を診断するために立位でポータブルX線発生装置を用いた骨盤部のX線検査法の検討を行った。

ロ) 育成馬における消化管寄生虫の汚染状況と駆虫薬の有効性を明らかにするためBTC利用馬から検体を採取し調査を行った。

ハ) 上腕骨疲労骨折発症馬の臨床的な特徴および予後について回顧的調査を行った。

ニ) 第一指(趾)骨不完全骨折の発生状況、治療方法および成績について回顧的調査を行った。

ホ) 研究成果を以下のとおり公表した。

a) 学会等の発表

「育成牧場における馬の消化管寄生虫の虫卵排出状況と駆虫薬の有効性」

(北海道獣医師会 令和5年度北海道地区学会)

(日本ウマ科学会 第36回学術集会)
「浦河町地区育成牧場に馬消化管内寄生虫に関するアンケート調査」
(北海道獣医師会 令和5年度北海道地区学会)
「立位でポータブルX線発生装置を用いて診断した馬の骨盤骨折9症例」
(北海道獣医師会 令和5年度北海道地区学会)
(日本ウマ科学会 第36回学術集会)

b) 誌上発表

「育成馬にみられる骨折」

(BTCニュース 2023年No.130-133)

c) 講習会等

「3Dプリントシューをリハビリテーションに用いた蹄疾患の1症例」

(生産地における3D技術の活用に係る研修会)

「馬の育成期運動器疾患におけるファーストアプローチ

～診断の手順、超音波検査、X線検査～」

(令和5年度産業動物講習会)

「若駒に多い運動器疾患について」

(令和5年度埼玉県浦和競馬組合 強い馬づくり調教師研修会)

2. 評議員会等

2023年2月16日

第1回 理事会 (定例)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 令和4年度事業報告及び決算の件

(2) 規程の改正の件

(3) 第1回評議員会 (定時) の開催の件

報告事項 (1) 理事長及び専務理事の職務の執行状況

(2) 財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

2023年3月9日

第1回 評議員会 (定時)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 令和4年度事業報告及び決算の件

(2) 評議員の選任の件

(3) 役員を選任の件
報告事項 (1) 財産の運用状況
出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席5名、欠席3名、監事出席2名、理事出席4名

2023年3月9日

第2回 理事会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場
決議事項 (1) 理事長及び専務理事の選定の件
出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

2023年5月22日

第3回 理事会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場
決議事項 (1) 規程の改正の件
報告事項 (1) 理事長及び専務理事の職務の執行状況
出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

2023年11月20日

第4回 理事会（定例）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場
決議事項 (1) 2024年度財産の運用方針案及び運用計画案の件
(2) 2024年度事業計画案及び収支予算案の件
(3) 第2回評議員会の開催の件
報告事項 (1) 理事長及び専務理事の職務の執行状況
(2) 特定資産取得・改良資金の積立
出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

2023年12月4日

第2回 評議員会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場
決議事項 (1) 2024年度事業計画案及び収支予算案の件
(2) 評議員の選任の件
(3) 役員選任の件
出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席7名、欠席2名、監事出席2名、理事出席4名

3. 事業報告に関する附属明細書

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。